

一般質問通告書

平成28年 2 月 29 日

高島市議会議長 秋永 安次 様

高島市議会議員 6 番 熊谷 もも 印

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁
② 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 2) 発言事項	なぜ「なまず」なのか
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	
<p>質問1 水温気温の低い高島は「なまず」の育苗に適しているのか？</p> <p>質問2 小学校の跡地が「なまず」の育苗に適しているのか？</p> <p>質問3 なぜ「なまず」なのか？なぜ特産品を新しく作り出さなければならないのか？高島には特産品がないのか？</p> <p>平成27年11月13日のプレスリリース：近畿大学農学部水産学科（奈良県奈良市）准教授の有路昌彦が開発した「うなぎ味のナマズ」の産業化を目的にかねてから生産パートナーである有限会社榎原養鰻（鹿児島県東串良町）が新会社「日本なまず生産株式会社」を設立しました。なお、同社取締役には開発者の有路が就任いたしました。</p> <p>新会社は、株式会社鹿児島銀行（鹿児島県鹿児島市）が出資を行っているKFG地域企業応援ファンドから約3千万円の出資を得て、来年の土用の丑の日に「うなぎ味のナマズ」100トンの出荷を目指します。</p> <p>「日本なまず生産株式会社」の会社概要をみると</p> <p>資本金は50百万円（KFG地域企業応援ファンド57%、牧原博史40%、有路昌彦2%、中尾友一1%）とあります。</p>	

利益が出る事業ならば民間のファンドが出資する。ということです。

今年の2月21日に長浜市湖北文化ホールで「地方創生のこれから」と題して講演された岩手県紫波町のオガールプロジェクトで有名な内閣官房地域活性化伝道師の木下斎さんは

地方創生に必要なのは、資金調達が可能な事業開発であり、成果をあげているのは、民間が立ち上がり、事業を推進している地域ばかりです。「投資したお金を数年で回収できる小さな規模で事業を行ったりして変化に対応するやり方が大切」と述べています。「マーケットの厳しい目」のチェックを事前に受けるほうが、「プロジェクトの持続可能性」を見るうえで、極めてまともな現実的な問題と向き合うことになる。

質問4-1 利益を出し、雇用の創出につながるのであれば、民間の金融業が融資をするはずである。どうして高島市の予算を使い事業を支援する必要はあるのか？

質問4-2 高島市が投資したお金を数年で回収できる見込みがあるのか？

質問5 クラウドファンディングのような形で資金を集めることも、将来性や社会的公益性があれば十分に可能だ。なぜそのような形ではなく、高島市の予算を使わなければならない理由について伺う。

質問6 新規事業を支援するにしても、ビジネスプランオーディションのような形をとって公開審査や公募のような形をとるのがふさわしいのではないのか？

質問7-1 新規事業を軌道にのせるのは本当に大変なこと。たとえば町のパン屋や本屋は地域活性化や雇用にはつながらないのか？

質問7-2 なぜ「なまず」は地域活性化や雇用につながるということで、高島市から支援してもらえるのか？

質問8 高島市にはたとえばジビエなら獣害対策をかね、たとえば薪なら林業支援につながる社会公益性の高い、行政が支援すべきビジネスの素材が豊富にある。その方向に行政の支援を進めてはいかがか？